

第4次みやこ町総合計画基本構想 素案

**2026年1月
みやこ町**

1はじめに

目的

「第4次みやこ町総合計画基本構想」（以下、「本構想」という。）は、町民の皆さんや団体・民間企業など、みやこ町に関わる多くの方が一体となって同じ方向に向かって取り組めるように、みやこ町が「これからどんなまちを目指していくのか」を共有するための指針となります。

本町では、町民一人ひとりの暮らしや想いを反映した、地域全体でともに描くまちづくりを目指しています。本構想の策定にあたっては、多くの方々からご意見をいただきました。

今後も引き続き、地域に関わる皆さんとの対話と共創を大切にし、持続可能なまちづくりの道筋を共に考えていきます。

背景・位置づけ

みやこ町では、2021年（令和3年）6月に「第3次みやこ町総合計画」を策定しました。第3次総合計画では、今後の10年間を見据えた5年間のまちづくりの方向性を示す“基本構想”と、基本構想の実現に向けて取り組む施策をとりまとめた“基本計画”を定め、分野・事業ごとの個別計画や毎年度の事業の“実施計画”とあわせて、まちづくりを進めてきました。

これまでの取り組みにより一定の成果はありますが、様々な課題も発生しています。近年では、急速に変化する社会情勢への対応が求められる中、現行の総合計画では柔軟な見直しが困難であることや、計画策定自体が目的化してしまうなど、総合計画が抱える課題が明らかになっています。

また、2011年（平成23年）8月に地方自治法の一部を改正する法律が施行され、総合計画の策定義務が廃止され、最近では、計画的な行政運営を進めるために、各分野で個別計画が策定されています。

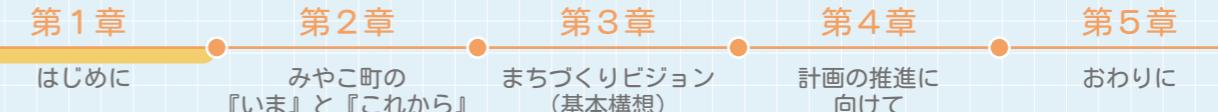
こうした状況を踏まえ、これまでの総合計画のように、施策や事業を網羅的に位置づけるのではなく、その時々の社会情勢や町民のニーズに基づいた課題の緊急性や重要性を踏まえつつ、政策効果を高めた事業展開が図られるよう、計画の仕組み 자체を転換する必要があります。

そこで、柔軟に課題に対応し、継続できる仕組みとして、本構想では、長期的な視点に立った将来像や基本目標を定めた上で、実施する施策を位置づけます。

1

目次 CONTENTS

1. はじめに	P1	3. まちづくりビジョン（基本構想）	P15
目的		まちづくりの将来像	
背景・位置づけ		これから目指す まちのかたち	
期間		将来像の実現に向けた目標	
2. みやこ町の『いま』と『これから』	P3	4. 計画の推進に向けて	P23
みやこ町ってどんなまち？		住民と行政がともに歩むまちづくりを目指します！	
みやこ町を取り巻く状況		PDCAサイクルに基づく計画的なマネジメントを	
地域幸福度（Well-Being）指標からみた みやこ町の特徴		実施します！	
みやこ町の人口ビジョン		5. おわりに	P25
みんなで暮らしやすいまちをつくる！		みんなで一緒にまちをつくっていきませんか？	
これから取り組むべきこと			



期間

期間は2026年度（令和8年度）から2033年度（令和15年度）の8年間を見据えた将来像、基本目標を定めます。

また、施策について4年ごとに社会情勢や事業の効果、検証結果を踏まえ、見直しを検討します。

今回の計画策定にあたっても、いろんな人から意見をもらいました！



次のページから
ワークショップなどで
皆さんからお聞きした意見を
掲載していますよ！



2

みやこ町の『いま』と『これから』

第1章

はじめに

第2章

みやこ町の『いま』と『これから』

第3章

まちづくりビジョン（基本構想）

第4章

計画の推進に向けて

第5章

おわりに

みやこ町ってどんなまち？

昭和の大合併で、犀川町・勝山町・豊津町の3町ができました。それぞれが個性あるまちづくりを進めてきましたが、厳しい時代と一緒に乗り越えるため、平成18年3月20日に3町が合併し、「みやこ町」として新たなスタートを切りました。



みやこ町ってこんなまち！

とっても広いまち

福岡県の北東にあり、北東は行橋市、北は北九州市、西は筑豊地域、南は大分県に接しています。面積は151.34km²で南北に長く、福岡県の中では7番目の広さです。その中でも、町と村の中では一番広いまちです。

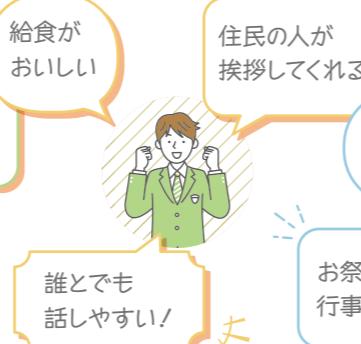
自然が豊かなまち

南側と北側の地域は急な山々に囲まれ、町の面積の約63%が森林です。英彦山から流れる今川や祓川、北部からの長崎川が町を通り、美しい緑と水に恵まれています。この豊かな土地を活かした農業が盛んで、米の生産量は県内8位（令和6年作物統計調査）を誇る米どころです。

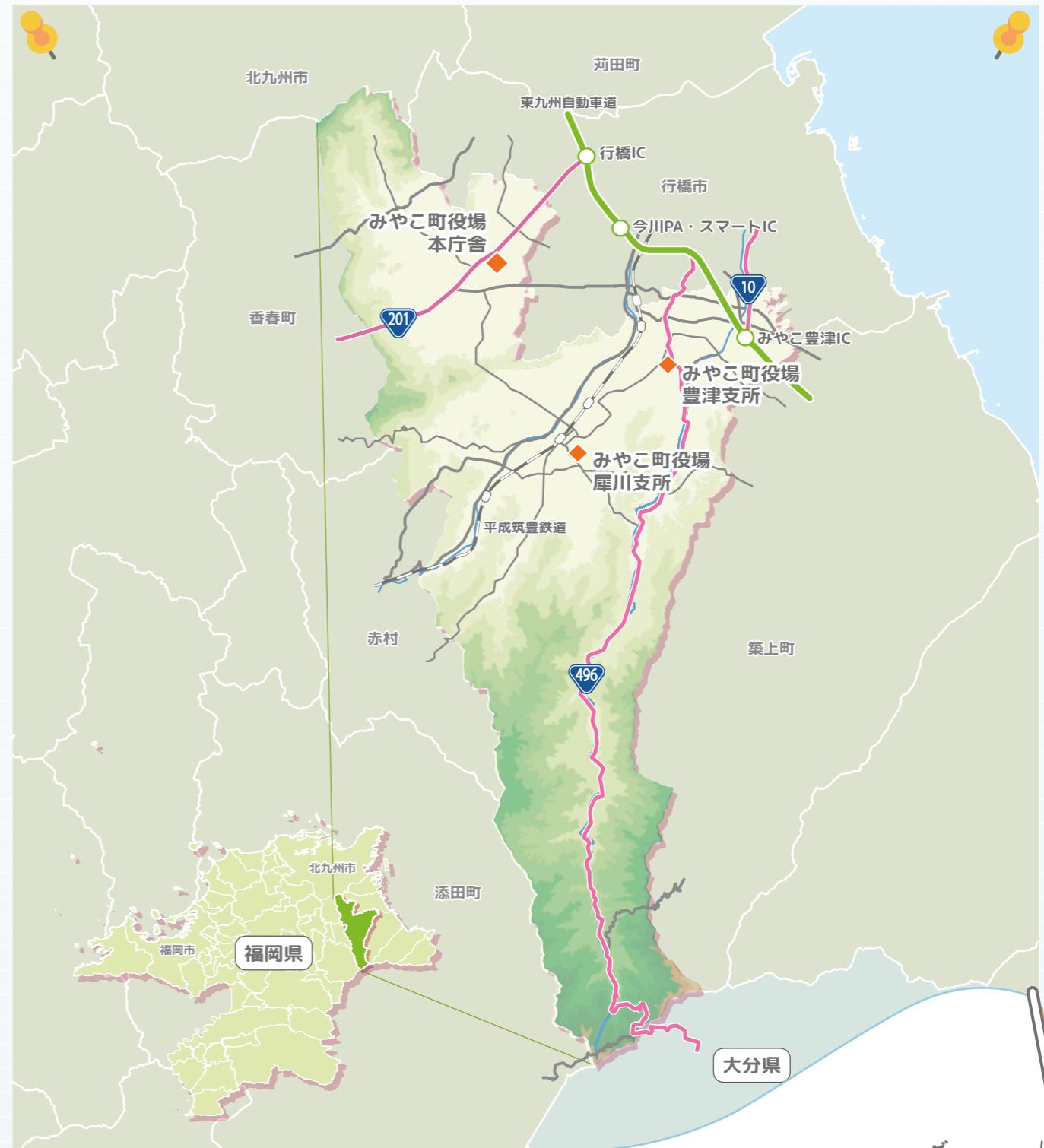
歴史・文化がつづくまち

旧豊前国の中心地として、国府や国分寺が置かれ、政治や文化の中心地として古くから交流や交易が行われてきました。国分寺や古墳群をはじめ、地域の伝統芸能など、多くの文化遺産が今も残されています。

町の中学生、関係団体の皆さんにみやこ町の好きなところ・いいところを聞いてみました！



まだ
まだ
皆さん
ご意見
を
紹介しますよ！



サイクリングしていて気持ちいい！

水や空気がきれい

自然と関われるところが好き！

季節が感じられる

給食がおいしい

住民の人が挨拶してくれる

自然・生物環境が豊か

人が優しい

歴史的な文化財が豊富

大規模災害が少ない

まちが静か

生き物がたくさんいる

誰とでも話しやすい！

色々な山菜がある

お祭りなどの行事がたくさん

特産品が多い

旧3町が多様な地域特性を有している

地域愛が強い

大規模災害が少ない



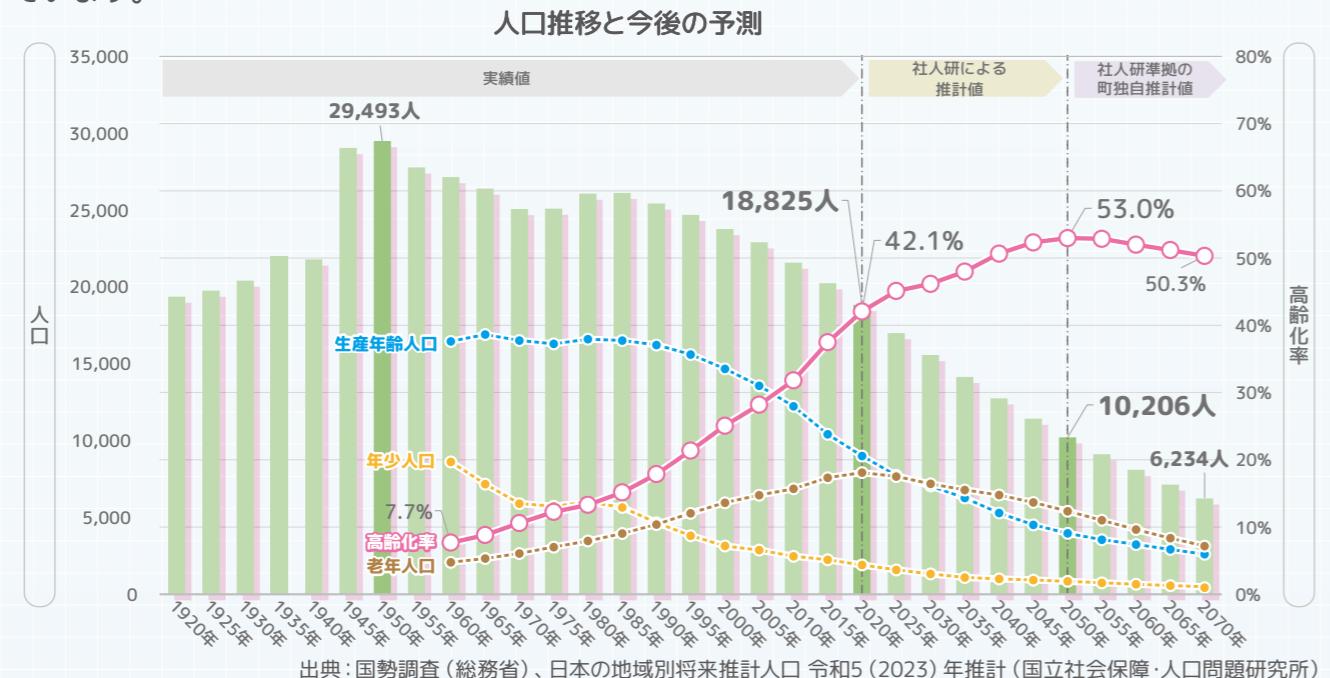
みやこ町を取り巻く状況

そんなみやこ町ですが、残念ながらいいところばかりではありません。人口減少・少子高齢化の進展や地域コミュニティの希薄化、厳しい財政状況など、皆さんの暮らしに関わるさまざまな問題も抱えています。

人口減少・少子高齢化の進行

みやこ町の人口は、1950年（昭和25年）をピークに減り続けています。2025年（令和7年）1月1日時点で17,710人となり、2020年（令和2年）からの5年間で約1割減少しています。高齢化率は42.8%で、全国平均28.9%や福岡県平均28.1%よりも高く、県内の市町村で4番目に高い数字となっています。なお、転出者数が転入者数を上回る状況は続いているが、2021年（令和3年）以降、転入者の数が増えている状況にあります。

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）が公表した推計によると、みやこ町の2050年（令和32年）の人口は10,206人になり、高齢化率は53.0%に達すると見込まれています。また、社人研に基づく本町の独自推計では、2070年（令和52年）に6,234人まで減少すると見込まれています。



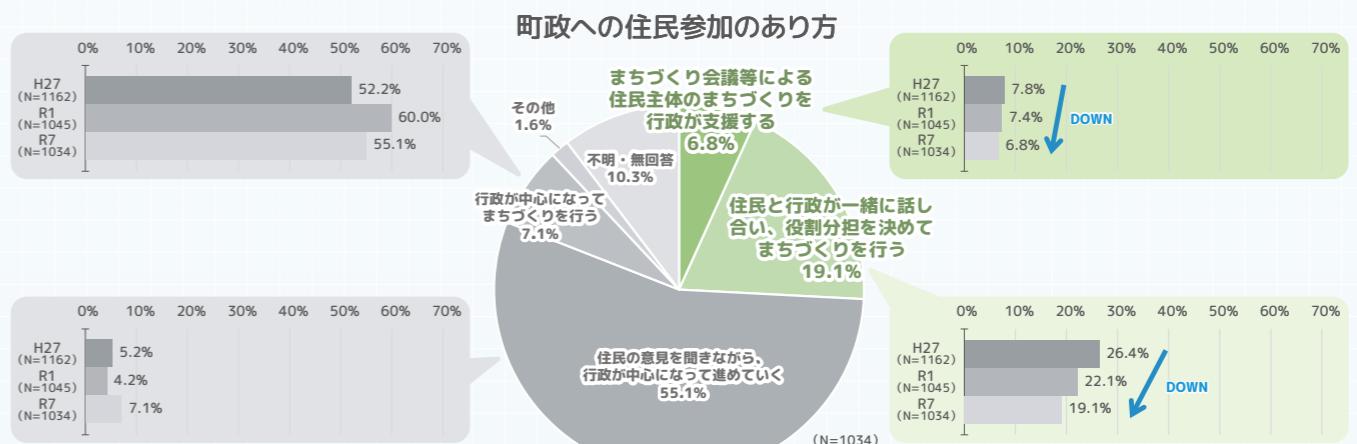
住民の皆さんに日常生活で感じている困りごとや地域の課題を聞いてみました！



地域コミュニティ機能や協働意識の低下

人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の担い手の減少による地域活動の衰退や、空き家・空き店舗の増加、地域防災力の低下、社会的孤立といった様々な問題が発生しています。このような状況を踏まえると、地域社会全体で支えながら生活を営むことの重要性は、これまで以上に高まっています。

しかし、住民アンケートの結果からみると、住民と行政が一緒に協力して進める“協働のまちづくり”的な雰囲気は、まだ十分に広められていないことがわかります。



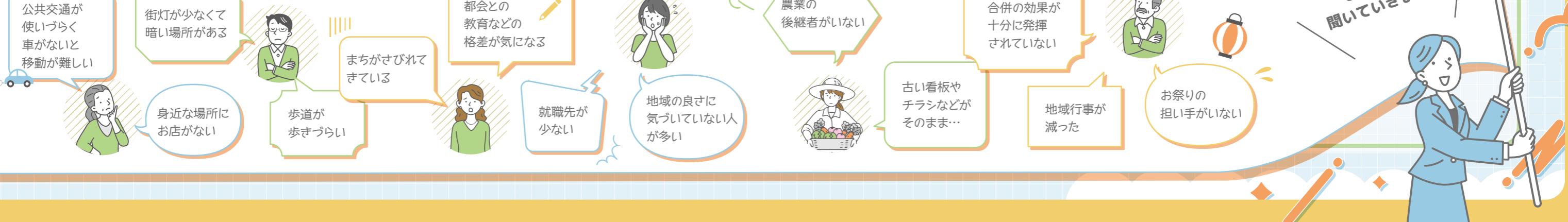
厳しい行財政運営

人口減少や少子高齢化に加えて、人件費や物価の高騰、公共施設の維持管理費や更新費が大きな負担となっていること、中心となる産業が少ないとなどから、厳しい財政状況が続いている。

地方公共団体の財政力を示す「財政力指数」は、高いほど財政に余裕があるとみなされていますが、みやこ町の2023年（令和5年）の財政力指数は0.34であり、類似自治体の平均0.48を下回っています。



今後も皆さんの声を
しっかりと
聞いていきます！



地域幸福度(Well-Being)指標からみたみやこ町の特徴

地域幸福度(Well-Being)指標とは、住民が感じる「幸福感」などの主観的なデータと、健康・経済状況などの客観的なデータを組み合わせ、地域の“暮らしやすさ”を見るための指標です。

国(デジタル庁)が実施する調査により、全国偏差値化されたデータが公表されており、まちの特徴を俯瞰で捉えることができます。

この指標をつくる際の土台となる考え方として、世界的に広まりつつある「ウェルビーイング」と「健康の社会的決定要因(SDOH)」の二つを基本概念として採用しています。

ウェルビーイング(Well-Being)

身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること

健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health)

個人または集団の健康状態に違いをもたらす経済的、社会的状況のこと

社会格差、ストレス、幼児期、社会的排除、労働、失業、社会的支援、薬物依存、食品、交通

出典: 地域幸福度(Well-Being)指標利活用ガイドブック(デジタル庁、一般社団法人スマートシティ・インスティテュート)

主観指標

- 各自治体が集めたアンケートデータを基にしている
- 「幸福感(Well-Being)」を算出したもの
- 時系列の比較に強い



幸福度・生活満足度を図る設問

- 現在、あなたはどの程度幸せですか?
- 現在、あなたの町内(集落)の人々は、どれくらい幸せだと思いますか?など

客観指標

- 各種オープンデータ等を基にしている
- 「暮らしやすさ」を測定したもの
- 分野間などの比較に用いる

主観指標では、幸福度や生活満足度を尋ねる4つの設問と3つの因子群(生活環境・地域の人間関係・自分らしい生き方)に関するアンケートデータから把握します。

客観指標では、同じ3つの因子群について、健康、教育、安全性、交流、交通アクセスなどの統計データ(オープンデータ)を用いて地域の状況を把握します。



3つの因子群(合計24カテゴリー)

生活環境 医療・福祉、買物・飲食、住宅環境、地域行政、デジタル生活、子育て、環境共生、自然災害など

地域の人間関係 地域とのつながり、多様性と寛容性など

自分らしい生き方 自己効力感、健康状態、雇用・所得など

出典: デジタル田園都市国家構想実現に向けた地域幸福度(Well-Being)指標の活用(デジタル庁HP)

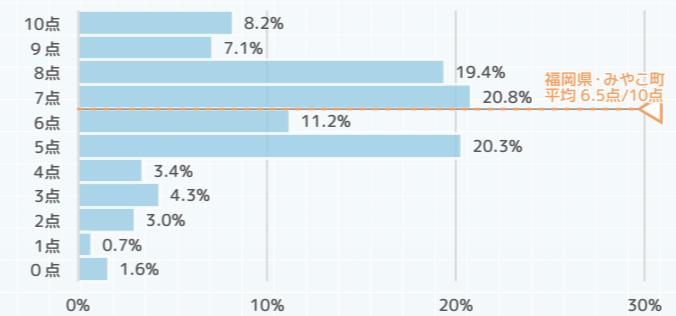
主観データ・客観データ

主観・客観ともに偏差値50以上
→この地域の強みであり、維持・向上を図るべき分野

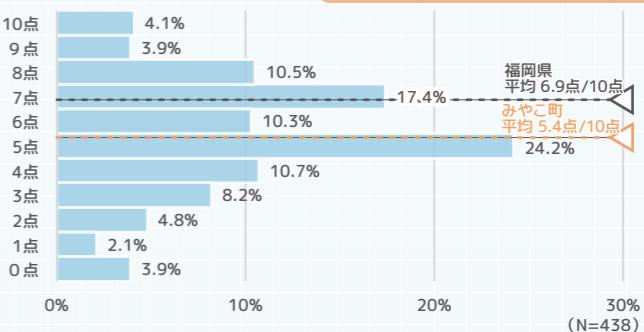
主観・客観ともに偏差値50未満
→この地域の弱みであり、優先的に改善が必要な分野

主観データ
客観データ

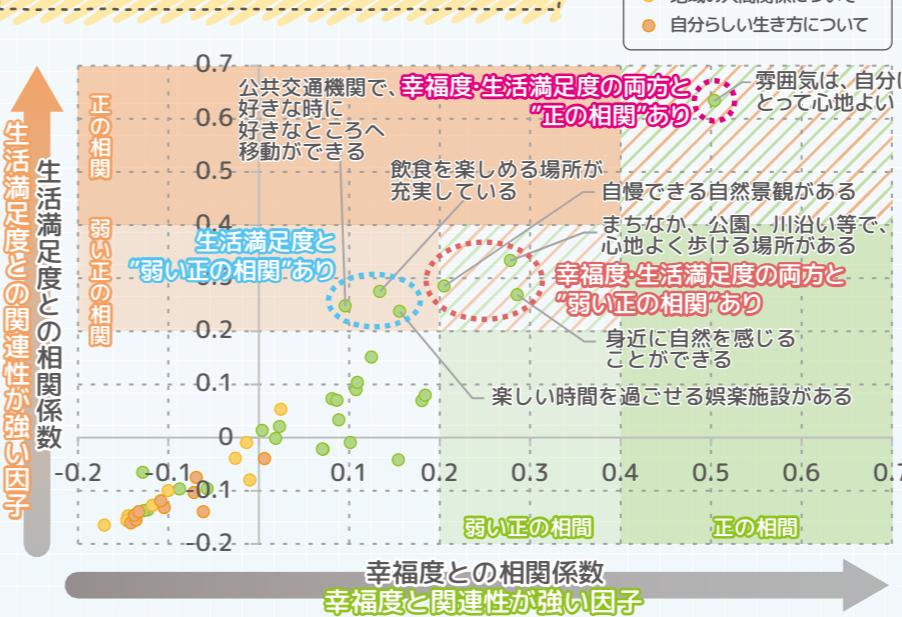
幸福度



生活満足度



幸福度・生活満足度×主観データ(因子)



◆相関係数
2つ以上のデータ間の関係の強さ
◆正の相関
1つの変数が増加すると、もう1つの変数も増加する傾向

幸福度・生活満足度と相関係数が高い因子は、その因子への評価(点数)が高いほど、幸福度や生活満足度も高くなる傾向がみられる

心地よい場所や雰囲気、豊かな自然を大切にしながら、楽しめる居場所づくりや移動の利便性を確保することが重要かも!

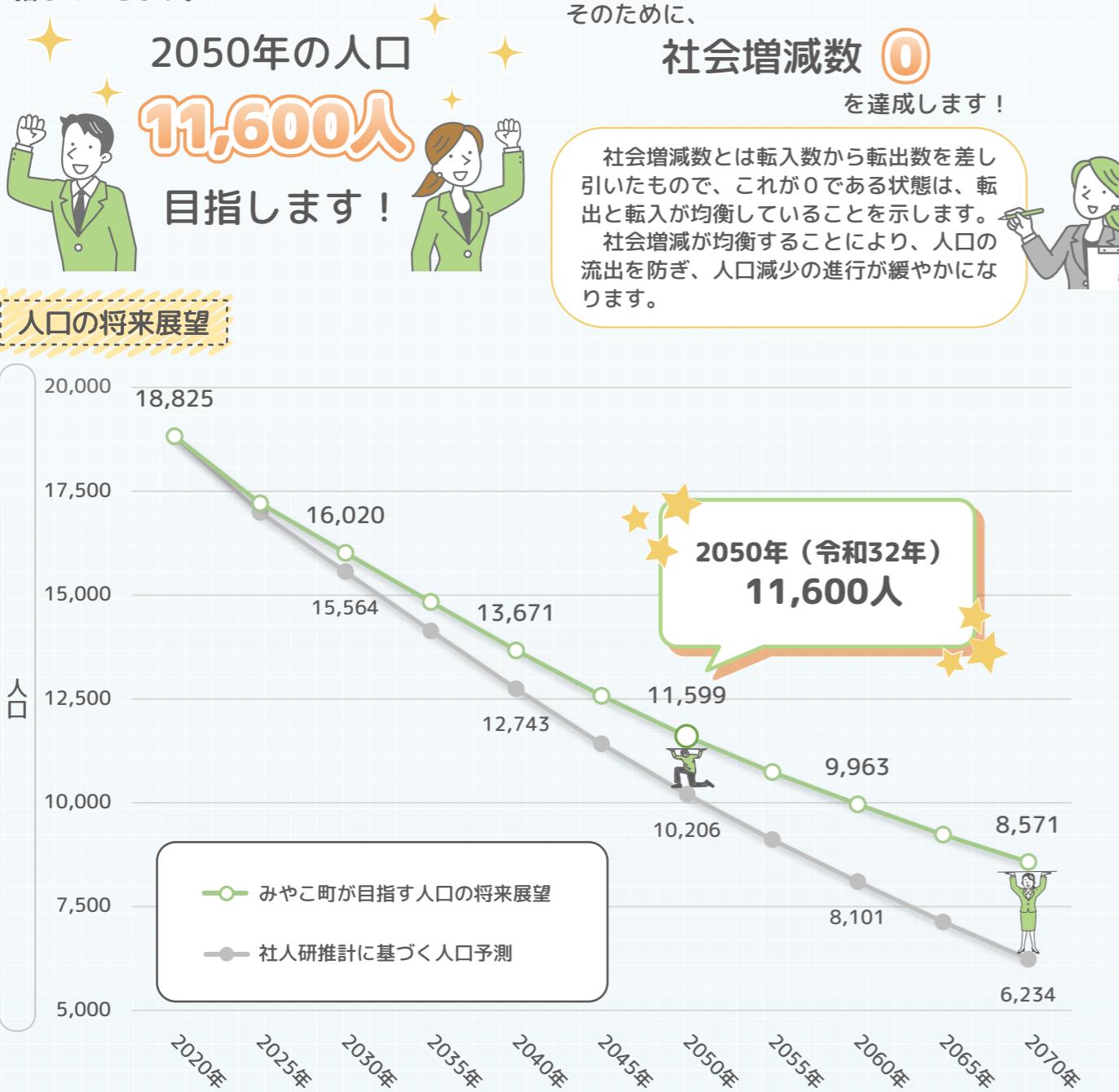


出典: 2025(令和7年度版) 地域幸福度(Well-Being)指標 全国調査・個別調査(デジタル庁)を基に作成・加工

みやこ町の人口ビジョン

人口減少は、自然減少（死亡数が出生数を上回る状態）と社会減少（転出数が転入数を上回る状態）の両方によって進んでおり、特に10代から20代の若い世代の転出が大きな要因となっています。

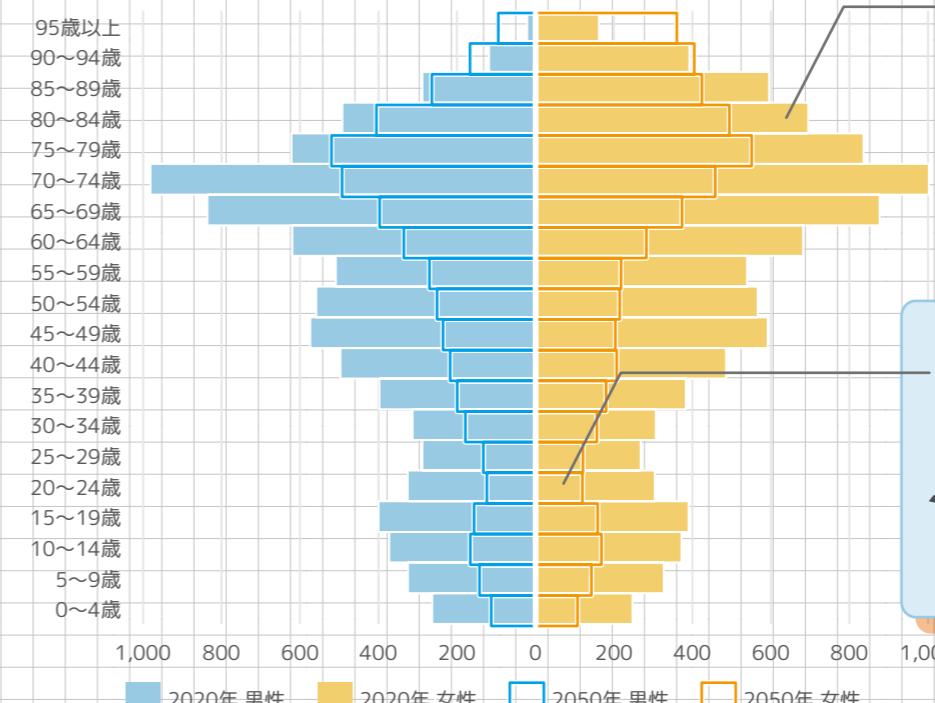
一方で、町外から通勤する人や、福岡市・北九州市などからの若い世代が転入してくる可能性もあります。このことから、20代から30代の世代を「まちにとどめる」「呼び込む」取り組みを進めることで、転入を増やし、人口減少の進行を抑えながら、年齢構成のバランスが取れたまちを目指していきます。



出典：『2020～2070年の人口の将来展望』『人口動向分析・将来人口推計のためのワークシート（令和6年6月版）』を用いた独自推計
『2020～2050年の人口予測』日本の地域別将来推計人口 令和5（2023）年推計（国立社会保障・人口問題研究所）
『2055年以降の人口予測』『人口動向分析・将来人口推計のためのワークシート（令和6年6月版）』を用いた独自推計

人口ピラミッドからみるみやこ町の将来

このまま2050年を迎えたたら…



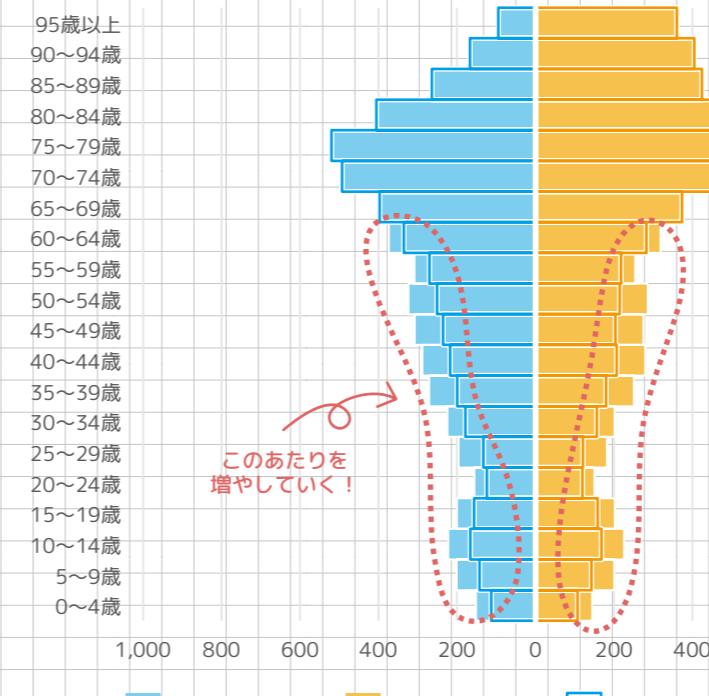
2020年のみやこ町は…



このままだと
2050年のみやこ町は…



みやこ町が目指す2050年の目標は…！



2050年に向けて目指す
みやこ町は…



人口減少を抑え、年齢構成のバランスが取れたまちへ！

みんなで暮らしやすいまちをつくる！

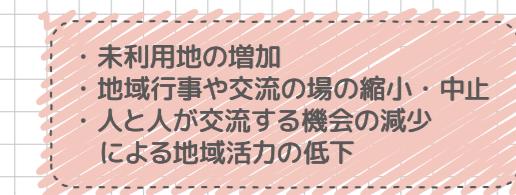
人口減少や高齢化が進むと、
暮らしや社会はどうなる？

このままでは将来、今よりも暮らし不便になり、町の魅力が低下し、人がさらに減ってしまうことがあります。特に、人口減少や高齢化は、私たちのまちの暮らしに大きな影響を与える大きな問題です。



- ・空き家の増加
- ・耕作放棄地の増加
- ・草刈りなど、地域の日常的な管理作業の担い手不足
- ・防災、防犯面の不安の高まり

生活環境の悪化

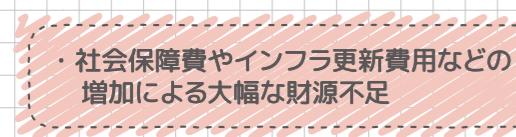


まちなかのにぎわいの低下



近隣のお店の減少や公共交通の利便性低下

- ・買い物環境の悪化
- ・医療機関や生活サービスの水準の低下や移動距離の増加
- ・公共交通の利便性の低下
- ・高齢化の進行による移動困難者の増加



厳しい自治体の経営

人や限られた資源を活かして
みんなで暮らしやすいまちに！

全国的に人口は減っており、このまちでも今後、人口を増やしていくのは難しいかもしれません。それでも、人口減少や高齢化の進み方をできるだけゆるやかにし、今いる人や限られた資源を活かしながら、みんなで力を合わせて、暮らしやすいまちを創っていくことが大切です。



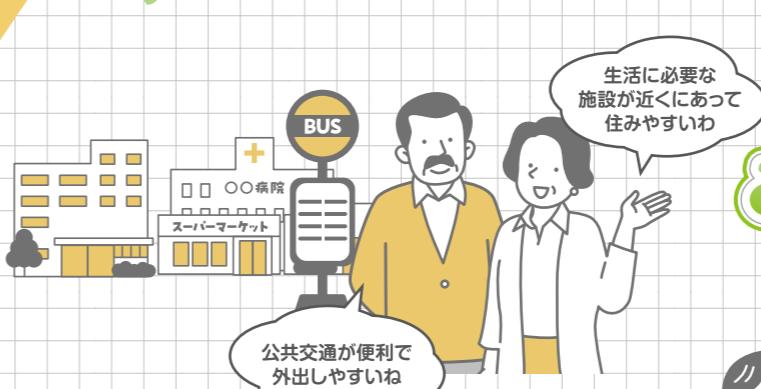
生活しやすい!

今日も賑やかだね



**まちがにぎやかで
楽しい!**

今日は何を
買おうかしら



おでかけしやすい!

生活に必要な施設が近くにあって住みやすいわ



適切な公共施設の統廃合や長寿命化により、更新費用などの効率化が図られる！



**施設や道路も
安心して使える！**

これから取り組むべきこと

みやこ町が抱える様々な問題

✓ 人口減少や少子高齢化の進行



- ✓ 地域行事や自治活動の担い手が減少し、人と人とのつながりが弱まりつつある
- ✓ 地域産業において人手不足が深刻化し、事業の継続や拡大が難しくなっている
- ✓ 若者や子育て世代の流出により、地域の活力や将来を担う人材が不足している

- ✓ 買い物、医療、公共交通など、日常生活に必要なサービスの維持が難しくなっている
- ✓ 公共施設やインフラの老朽化が進み、維持管理にかかる負担が増大している

- ✓ 自然や歴史、文化など地域の魅力を十分に活かした効果的な情報発信ができていない
- ✓ 行政が担う業務が増加・複雑化する一方、職員数や財源が限られているなど

解決に向けて これから取り組むべきこと

持続可能な地域社会の構築

地域のつながりや、買い物ができる場所や公共交通などの日々の暮らしに必要なサービスを維持していくために、社会の変化などを見据えた計画的なまちづくりを進めていくことが重要です。

また、年齢にかかわらず誰もが健康で生きがいを持ち、地域の中で役割を持って活躍できる環境を整えていくことが求められます。これまで培われてきた経験や知恵が、地域の力として活かされるまちを目指します。

将来にわたり、子どもから高齢者まで、あらゆる世代や立場の人が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、町民の皆さんと力を合わせながら、支え合いが続く地域社会の実現に取り組みます。

地域と関わる人を増やし、雇用と交流の拡大を通じた地域活力の向上

住環境や子育て・教育環境などの充実を図り、地域で安心して暮らし続けられる基盤づくりを進めるとともに、地域と関わる人を増やし、その中から移住・定住につなげていく取り組みを進めます。また、地域産業が将来にわたって存続・発展していくため、安定して働く場の確保や多様な働き方の創出に取り組み、雇用の持続性を高めていくことが重要です。

特に、主要な産業の一つである農業については、担い手の確保や生産体制の強化を進め、将来にわたり、地域で協力しながら農業を支える環境を整えていきます。

さらに、若者をはじめとする多様な人材が、仕事や活動を通じて地域と継続的に関われる環境を整えることで、地域内外との交流を促進し、新たな仕事やビジネスの創出、関係人口の拡大につながり、地域全体の活力向上に取り組みます。

まちの魅力を活かしたまちづくり・ひとづくり

地域が育んできた自然や歴史、文化を大切にしながら、日々の暮らしの中でその良さを活かし、まちの魅力をさらに高めていくことが重要です。住みやすさや子育て・教育環境といった暮らしに身近な魅力も含め、町の良さを分かりやすく伝え、町民の皆さん一人ひとりの関わりを通じて、さまざまな形で発信していきます。

あわせて、こうした町の魅力を通じて、子どもたちをはじめとする町民の皆さんのが地域への理解と愛着を深め、まちづくりに参加したいという意欲を高められるようにすることも重要です。その結果として、将来のまちづくりを担う人材が地域の中で育っていくような環境づくりに取り組みます。

民間活力やデジタル技術を活用した行政運営の一層の効率化

行政が向き合う課題は、住民ニーズの多様化への対応に加え、自然災害への備え、公共インフラの老朽化対策、空き家への対応など、年々幅広く、複雑になっています。

一方で、厳しい財政状況や職員数の減少により、限られた財源と人員の中で、これらすべてに行政だけで対応していくことは難しくなっています。その中でも、町民の皆さんのが安心して暮らせるよう、必要な行政サービスの質を維持し、将来にわたって安定的に提供していくことが求められています。そのため、民間事業者が持つ専門性や柔軟な発想、経営ノウハウを積極的に取り入れ、民間との連携・協働を進めることで、より効果的に持続可能な行政運営を目指します。

あわせて、デジタル技術の活用により業務の効率化や情報共有を進め、町民の皆さんのが利便性向上とサービスの質の向上を図りながら、安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。

3 まちづくりビジョン(基本構想)

第1章 はじめに
第2章 みやこ町の『いま』と『これから』
第3章 まちづくりビジョン(基本構想)
第4章 計画の推進に向けて
第5章 おわりに

まちづくりの将来像

輝くふるさと みやこ町

~つながり、まさりあい、ともに育むみんなのまちのミライ~

私たちのまちが“輝く”ということ

みやこ町には、自然や歴史、文化、産業、人のつながりなど、次世代につなぐべき魅力がたくさんあります。まちが“輝く”ということ、それは様々な魅力にあふれ、他のどこにも負けない強みや独自性を持ち、それらを大切に次世代につないでいきながら、みやこ町に関わる一人ひとりが生き生きと輝くことです。

目指すのは一人ひとりの“ふるさと”

誰もが「帰りたくなる」「住み続けたい」と感じられる温かい場所。
一人ひとりがこのまちを大切に思い、親しみや安心感に満ちたまちを目指します。

まちづくりは“みんな”が主役

まちづくりは行政だけで進められるものではありません。
世代や立場をこえて、語り合い、知恵を出し合い、協力する=“まさりあう”ことで、人と人、そして地域のつながりがさらに広がっていきます。
そのまさりあいの中から新たな力を生み出し、みんなで創り上げていく——そんなまちづくりを進めます。



これから目指す まちのかたち

人口減少や少子高齢化が進む中で、地域の暮らしやにぎわいを将来にわたって守っていくためには、町全体が一体となり、これからまちの形を見据えて取り組むことが必要です。

これからみやこ町は、暮らしに必要な機能やサービスを身近な拠点に集めながら、**それぞれの地域が役割を持ち、互いに“つながり”合うことで支え合うまち**を目指します。地域ごとの特色を大切にしながら、拠点と地域、地域と地域が結ばれることで、町全体としての暮らしやすさと安心感を高めていきます。

あわせて、町の内外を問わず、**さまざまな人が地域との“まさりあい”の中で、新たな気づきや挑戦が生まれるまちづくり**を進めます。仕事や学び、交流の場を通じて人の流れを生み出し、若者や子育て世代、高齢者など、多様な人がそれぞれの立場で地域と関わり続けられる環境を整えていきます。こうした地域との関わりや日々の暮らしを通じて、子どもたちをはじめとする町民の皆さんのが、**無理のない形でまちづくりに参加し、その想いを次の世代へと受け継いでいく、“ともに育む”まち**を目指します。



将来像の実現に向けた目標

将来像を実現するために、みやこ町では4つの基本目標を掲げ、施策を進めていきます。

number

01 元気で安心して生活できるまちにする！

住民一人ひとりが生涯にわたって健康で、生きがいを持って暮らせるよう、介護予防や地域の支え合いの仕組みを充実させ、安心して生活できる環境を整えます。

あわせて、一人ひとりの人権が尊重されるとともに、災害や犯罪などから住民の生活が守られ、地域医療や消防・救急体制が整った、安心・安全なまちを目指します。

17



豊かな自然環境を守りながら、道路や公園、上下水道などの生活基盤を計画的に整備・管理し、快適な住環境の形成を図ります。あわせて、コンパクトプラスネットワーク※の考え方やデジタル技術の活用により、生活の利便性を向上させます。

これらの取り組みにより、暮らしの基盤を充実させ、町の魅力を高め、発信していくことで、住み続けたい人、住んでみたい人に選ばれる町を目指します。

※コンパクトプラスネットワークとは、医療・福祉施設、商業施設などの生活サービス機能や住居が一定程度まとまって立地し、住民が公共交通などにより、これらの生活サービス機能にアクセスしやすいまちづくりの考え方です。

number

02 自然と共生し、快適で住みよいまちにする！



number

03 産業と交流が盛んな活気あるまちにする！

地域産業全体の活性化に向けて、事業の継続・拡大や創業支援に取り組み、安定した雇用の確保と地域経済の循環を促します。そのうえで、農林業については、担い手の育成や生産体制の維持・向上を図るとともに、有害鳥獣対策や荒廃森林対策などを通じて、農林業基盤の保全に取り組みます。

また、観光資源を活かした誘客促進や広域連携を進めることで、関係人口・交流人口の拡大を図り、活力と賑わいのあるまちを目指します。

18



安心して子どもを産み育てられる環境を整え、質の高い教育を提供することで、子どもたちが夢を持って成長できる基盤をつくります。

また、生涯学習やスポーツの推進、地域文化の継承と振興を通じて、あらゆる世代が心豊かに学び、活躍できるまちを目指します。

number

04 夢を持ち、心豊かな人を育てるまちにする！



number

01 元気で安心して生活できるまちにする!

施策1 生涯現役を推進する

- ◆ 住民の健康づくりやフレイル・介護予防を推進します
- ◆ 高齢になっても生きがいを持って暮らせるよう支援します



施策2 みんなで支え合う仕組みをつくる

- ◆ 介護サービスの充実と質の確保、適正化を図ります
- ◆ 住民との協働による健康・福祉活動を推進します
- ◆ 福祉サービスによる誰もが安心できる暮らしを支援します



施策3 あらゆる差別の撤廃と人権擁護を推進する

- ◆ 一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりを推進します
- ◆ 人権啓発・教育を推進します
- ◆ 男女共同参画社会実現のための環境づくりを行います



施策4 生活の安全・安心を確保する

- ◆ 災害に強いまちづくりを推進します
- ◆ 自助・共助による地域防災力や防犯体制の強化を図ります
- ◆ 空き家対策を推進します
- ◆ 地域医療の充実を図ります
- ◆ 消防・救急体制の基盤整備を推進します
- ◆ 消費生活に関する相談体制の充実と消費者被害の防止対策強化に努めます



number

02 自然と共生し、快適で住みよいまちにする!

施策5 豊かな自然環境を守る

- ◆ 住民との協働による環境保全活動を推進します
- ◆ ごみ減量化とリサイクル活動を推進します
- ◆ 地域との共生が図られ、調和のとれた開発行為や土地利用を誘導します



施策6 道路を整備する

- ◆ 幹線となる国道・県道の整備を図ります
- ◆ 町道の計画的な整備を行います
- ◆ 安全な道路空間の形成を図ります



施策7 住環境を良くする

- ◆ 公営住宅の適切な管理を図り、多様なニーズに対応した快適で安全な住宅環境づくりを進めます
- ◆ 公園の適切な整備・維持管理を行います
- ◆ 上水道・下水処理施設の適正な維持管理を行います



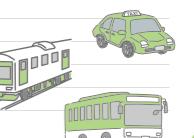
施策8 移住・定住を促進する

- ◆ 移住・定住PR活動を行います
- ◆ 移住者の受け入れ体制の整備・充実を行います



施策9 生活の利便性を向上させる

- ◆ コンパクトプラスネットワークに基づいたまちづくりを推進します
- ◆ 公共交通サービスの確保と利用促進を図ります
- ◆ デジタル技術を活用した行政サービスの利便性向上を図ります



19

20

03 産業と交流が盛んな活気あるまちにする!

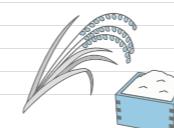
施策10 農林業を振興する

- ✧ 農林業の担い手の確保・育成を図ります
- ✧ 生産体制を強化し農家所得の向上を図ります
- ✧ 農地や農業生産基盤の維持・確保を図ります
- ✧ 有害鳥獣対策を推進します
- ✧ 荒廃森林対策を推進します



施策11 特產品を活かした魅力づくりを推進する

- ✧ 特產品の開発と情報発信を推進します
- ✧ 特產品、農林產品の6次産業化やブランド化を推進します



施策12 商工業を振興する

- ✧ 町内事業者の事業継続・拡大を支援します
- ✧ 企業誘致・起業支援を推進します
- ✧ 就業を支援します



施策13 観光を振興する

- ✧ 観光客の受け入れ環境を整備します
- ✧ 町の魅力を活かした関係人口・交流人口の拡大を図ります



施策14 國際交流を推進する

- ✧ 國際交流の場づくりを進めます
- ✧ 國際感覚を持つ人材の育成を図ります



04 夢を持ち、心豊かな人を育てるまちにする!

施策15 子育て支援の充実を図る

- ✧ 母子の健康を守る取り組みを推進します
- ✧ すべての子どもがのびのびとたくましく成長できる環境をつくります
- ✧ 安心とゆとりをもって子育てを楽しめる環境をつくります



施策16 子どもの教育環境の充実を図る

- ✧ 教育の質の向上を図ります
- ✧ 地域と連携した安全・安心な教育サービスを提供します
- ✧ 家庭の教育力の向上を図ります



施策17 生涯学習を推進する

- ✧ 多様な世代・ニーズに応じた学習機会・内容の充実を図ります
- ✧ 文化施設などを活用した社会教育や地域文化活動を促進します



施策18 スポーツの推進を図る

- ✧ 住民主体のスポーツ・レクリエーション活動を推進します
- ✧ 競技スポーツを振興します
- ✧ 指導者の育成・発掘を行います
- ✧ 既存の体育施設を有効活用し健康づくりを促進します



施策19 地域文化の継承と振興を図る

- ✧ 文化遺産の保存・整備と調査研究を推進します
- ✧ 文化遺産の活用と広報普及・情報発信を推進します
- ✧ 伝統・地域文化や芸術文化の振興を図ります



4 計画の推進に向けて

住民と行政がともに歩むまちづくりを目指します！

住民一人ひとりがまちづくりの主役となり、住民と行政が同じ目線で対話しながら、行政と力を合わせて未来をかたちにしていく——それが、本構想がめざす「住民と行政がともに歩むまちづくり」です。

住民が参加しやすい場づくりや地域の担い手の確保、自主的な活動への支援を通じて、地域への誇りと愛着を育てます。さらに、効率的で健全な行財政運営などを通じて、透明性と信頼性の高いまちづくりを推進します。

住民と行政との協働を推進する

- 住民がまちづくりに参加しやすい環境づくりを進めます
- 地域づくり人材を確保します
- 住民の主体的なまちづくり活動を支援します

開かれた町政を推進する

- 行政情報の公開に加え、オープンデータの活用を進めます
- 住民の町政への参画機会の充実を図ります

効率的な行政運営を行う

- DXや民間活力の導入などによる業務効率化を推進します
- 多様な課題に対応できる人材育成を推進します
- 広域行政を推進します

健全な財政運営を行う

- 中長期的な財源の確保とマネジメントを推進します
- 事業などの必要性や効果を踏まえ、歳出の適正化を図ります

公営企業の安定的な経営を推進する

- 水道事業・下水道事業の安定した収入の確保と効率的な運営を図ります
- 経営状況の積極的な情報公開に取り組みます

PDCAサイクルに基づく計画的なマネジメントを実施します！

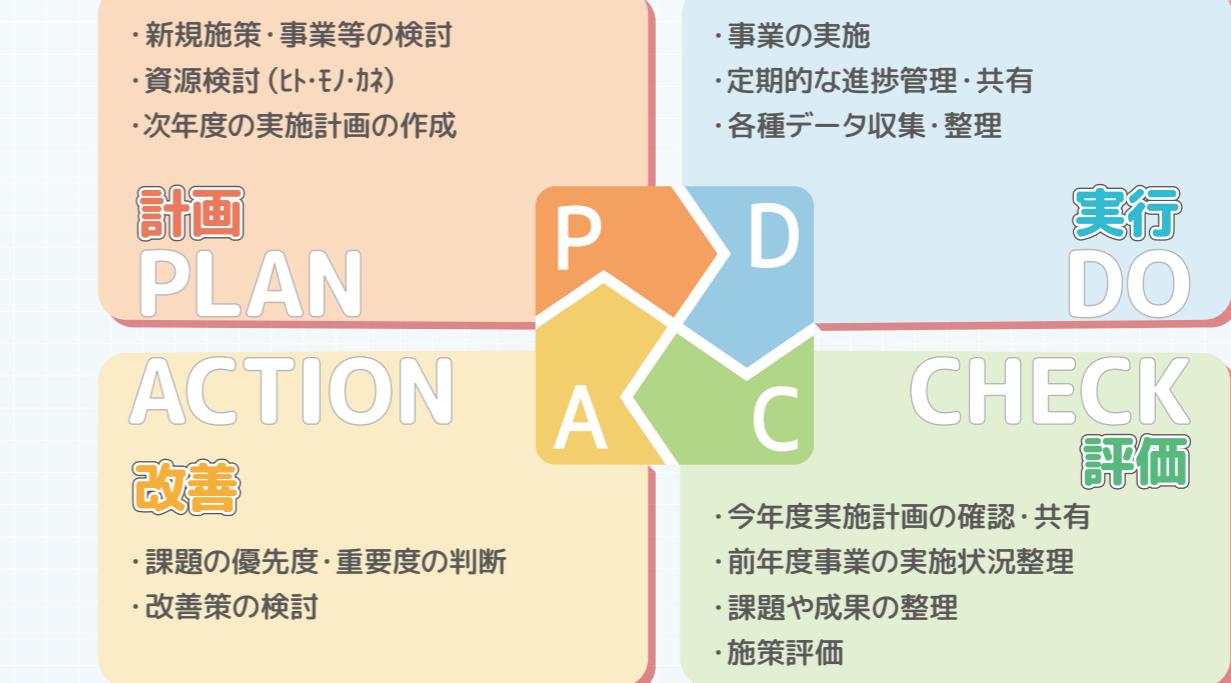
本構想は、将来像やまちづくりの方向性を示すものであり、策定して終わりとするものではありません。今後、具体的な施策や事業の検討・実施にあたっては、その進捗状況や成果を確認しながら、必要に応じて見直しや改善を行い、実効性を高めていくことが重要です。

そのため、本構想を踏まえた上で、実際の事業、施策の推進段階においては、「計画→実行→検証→改善」の流れに基づくPDCAサイクルを活用した計画的なマネジメントを行います。毎年度、事業、施策の進捗や成果、課題を整理・把握するとともに、町の実情や社会情勢の変化を踏まえ、検証結果を実施計画に反映させていきます。

実施計画とは、基本構想、各計画に基づき、各年度に実施する具体的な事業内容や予算などを示した、町の行動計画です。



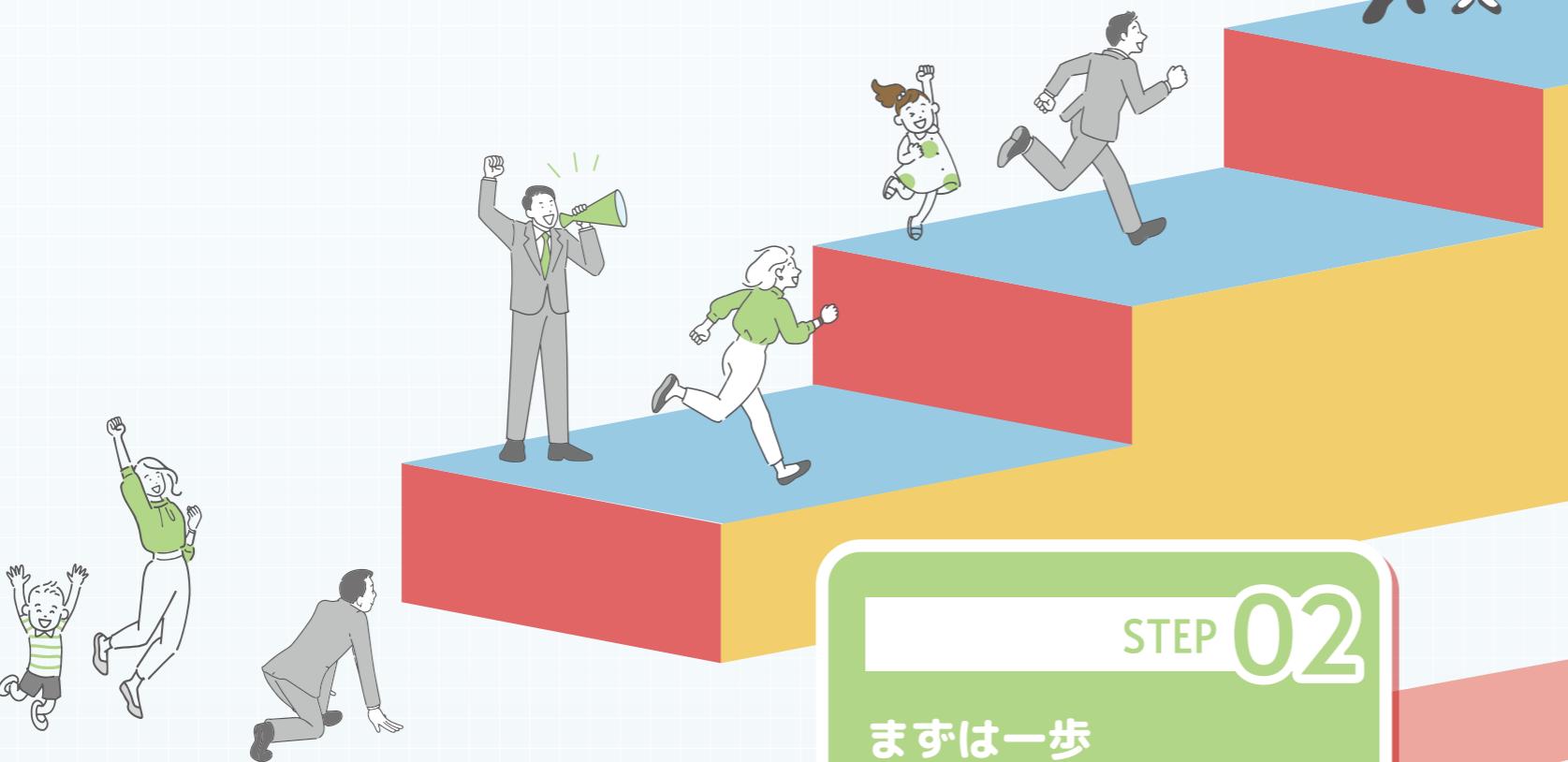
PDCAサイクルに基づくフォローアップイメージ



5 おわりに

みんなで一緒にまちをつくっていきませんか？

「もっと住みやすい町になったらいいな」「子どもたちに、この町の良さを残したい」そんな想いを持つ皆さんへ。まちづくりは、一人ひとりの小さな行動から始まります。



STEP 01 まちのことを知ろう

まずは、まちの知らない魅力について、もっと知って、楽しんで、応援しましょう！

- ・イベントやお祭りに参加してみる
- ・まちを歩いて、気になる場所や風景を見つけてみる
- ・近所の人やお店の人とあいさつや会話をして、地域の人と交流する
- ・町のお店や公共施設（図書館、公民館など）を訪れてみる
- ・地域資源や歴史・文化を学ぶ

STEP 02 まずは一歩踏み出してみよう

まちの未来をつくるのは、私たち一人ひとりの行動です。小さな一歩が、大きな変化を生み出します。

- ・まちの課題や将来について考える
- ・地域の人の声を聴いて、話し合ってみる
- ・勉強会やワークショップに参加する
- ・町の取り組みや地域活動を知る
- ・町の情報を定期的にチェックする
- ・町のお店や公共施設を積極的に利用する

STEP 03 具体的なまちづくり活動をしよう

まちづくりは、私たちが暮らす地域をより良くするために大切な活動です。あなたのアイデアや行動が、まちをもっと魅力的にします！

- ・イベントの企画・運営に携わる
- ・子どもや高齢者などの見守り活動に参加する
- ・SNSなどでまちの魅力を発信する
- ・空き家や空きスペースを活用した居場所や賑わいづくりを行う
- ・歴史・文化資源の保全や継承活動（祭り・伝統行事・古い建物の保存など）に参加する
- ・地域の清掃活動や緑化活動など、環境保全の取り組みに参加する
- ・地域サークルやスポーツ活動の指導・運営に携わる

あなたのペースで、
できることから始めてみませんか？



第1章 はじめに
第2章 みやこ町の『いま』と『これから』
第3章 まちづくりビジョン（基本構想）
第4章 計画の推進に向けて
第5章 おわりに

GOAL!